

V O I C E

障登 PT 山下 宣郎（大阪たつの子勤労者山岳会）

2025 年も残すところわずかとなりました。

今年は、北アルプスでの山岳事故や、熊の出没が多かった一年だったように思います。

7 月、私たちが剣岳の早月尾根を登った数日後、同じルートで登っていた登山者が事故に遭われました。

また、八峰キレットでは、ご家族から「男性が帰ってこない」と警察に通報があり、残念ながら滑落した登山者が発見されました。その日が、ちょうど私たちがキレットを通過した日と重なっており、本当に驚きました。とても残念でなりません。

熊出没で思ったこと

熊の出没も、今年は全国的に多く報じられました。

8 月には北海道・知床半島の羅臼岳で、登山者がヒグマに襲われる事故が起きました。

実は私たちも羅臼岳に登る予定でしたが、登山道が閉鎖されたため登れませんでした。

また、私たちが幌尻岳に登った際には、登山口のインドンアップ山荘付近でヒグマが突然走ってくる場面に遭遇しました。驚いて思わずにらめっこし、ストックを叩いて威嚇すると、熊は逃げていきました。

以前から、北海道の山では熊スプレーを携帯して登るようにしています。

近年、SNS 上では、人が熊に近づいて写真を撮ったり、餌を与える映像が見られます。

熊は本来、人間を避ける動物ですが、こうした行為が原因で人に近づくようになってしましました。

知床財団も警告を出していますが、熊の生態を正しく知り、互いの距離を守る意識が大切だと思います。

本州でも、ツキノワグマの出没が相次いでいます。

政府や自治体が警察や自衛隊を動員して対策をとるほどです。

原因の一つは、主食となるブナの実の不作といわれています。

さらに、畠に放置された作物や山中のごみなど、人間の行動が熊を引き寄せている可能性もあります。

山に熊がいるのは当たり前のことです。

大切なのは、遭わない工夫をすること。

音を出す、出没が多い地域を避ける、そして「畏敬の念」を忘れないこと。

それが、自然と共に生きる登山者の姿勢ではないでしょうか。

日本初の東京デフリンピック開催中

この原稿をお届けする頃、日本では初めての「東京デフリンピック」が開催されています。

期間は 11 月 15 日から 26 日までです。

デフリンピックは、聴覚に障がいのあるアスリートによる国際的なスポーツ大会で、パラリンピックよりも歴史が古く、世界中の聴覚障がい者が競い合う「もう一つのオリンピック」とも呼ばれています。今回の東京 2025 デフリンピックは、100 周年の記念すべき大会であり、日本では初めての開催になります。

大阪たつの子勤労者山岳会からは、丘村選手がオリエンテーリング競技の日本代表として出場します。

日ごろの努力の成果を発揮し、悔いのない大会となることを願っています。

皆さま、どうぞ温かいご声援をお願いいたします。

障登 PT について

障登 PT（「障がい者の登山学校参加に向けてのプロジェクト会議」の略称）では、今後も講習会や交流ハイキングなどの活動を企画していきます。

労山会員の皆さまに、聴覚障がいへの理解をさらに深めていただくとともに、聴覚障がい者が安心・安全に登山を楽しめる環境づくりを目指して、これからもさまざまな課題に取り組んでまいります。

以上